

1915年12月1日

「別記」

（本文の末）

再び町民諸君に訴ふ

冷血漢満口は

吾等が生死の叫びを蹴た!!

町民諸君！既報の通り溝口メリヤスのオヤヂは善も押迫る此の寒空に吾等五十名の首を切り其の惨事を社会に示した

然し我々は鋭意遺憾な態度を以て「お正月も近いから解散を撤回して下さい」と嘆願した此の吾等の紳士的な態度に激る美濃に對し被害は「會社はやりきれぬ」「一更張りして何等誠意ある回答をせぬのみか」「十四日分の手當を悪ければどうでもしろ」と云ふ様な態度である吾等は會社の内情をくわしく調査した其の結果政策的な「組合」ブチコワシの爲め「解散である」と云ふことを益々ハッキリ知った。それは鑑賞者の中に数万人を擁する者があり又東京のメリヤス界の巨頭なる美濃（日牟根）と吾等後に有